『正義』

『正義』

例えば争いがあるとします、そういうときはお互いに「正義」なんですよね。
こっちにも言い分があるし、あっちにも言い分がある。

では、お互い正義が戦った時はどうやって解決するのか。こっちに行って「そうだね」、あっちに行って「そうだね」じゃなくて、お互い同じような味覚というか、例えば全員が美味しい羊羹（ようかん）食べてみようと。
せ～いの！で羊羹を食べてみようと。そうする

と同じ味覚になるので、多少の解決策というか、同じ方向に向かうための「のりしろ」が広がると思うのです。

でも、それってやらないじゃないですか。実際ケンカしているもの同士が一緒に座って同じものを食べる、同じものを飲んでみるって大事なことだと思うのです。

同じ味覚の中で何か探せるのではないか。
相手の意見のここはよくないとか、俺はこう思うと言っていても、ず～っと、平行線。両方正義ですから。となれば、同じような味覚の中で話すと、もう少しなごむのではないかと思うのです。そうすれば解決策も妥協案も出てくるんじゃないかなって。

でも自分の正義が勝るのです。
私たちは、そんなつもりでホームを作ったわけじゃないですから、お爺さんお婆さんが、主体的に生活できる場所を作りたかっただけで、そこで仕事する人の「正義」を実現するために作ったわけじゃないのです。

私たちの行いの大前提に在る大切なことは

１．身体と心、社会、環境、魂は本質的なところで互いに信頼し支え合っている。ホリスティック（包括的）に捉える支援を大切にすること。

２．認知症そのもの介護するというよりも、その人の心の中にある感情を癒すことに目を向けること。

３．支援の本質は、人として生きてきた姿が尊ばれ、生きている姿に関心が向けられ、生きていく姿そのものの創造に役立てること。

この３つの在り方（Being）を私たちの仕事の中心に添えていければと考えています。

一般社団法人
北海道認知症グループホーム協会
会長　宮崎直人

編集後記

会員の皆様におかれましては日頃から当協会の運営にご理解とご協力を賜り心から厚く御礼を申し上げます。
最近の北海道の天候も不順が続き体調を崩されている方も多いのではないでしょうか。ご自愛ください。
当協会ではこのたび自治体でのグループホームの活用実態を調査させていただくことと致しました。共用型デイサービスの実施に関すること、短期利用に関することなどを自治体にお尋ねし、地域の中で認知症の状態にある高齢者をどう支援してゆくのか、グループホームの役割などについて共に考えてゆきたいと思っております。平成３０年度は医療介護保険の同時改定に伴い医療介護事業の環境が一層厳しくなることが予想される中、地域包括ケアの構築に繋がる一層の社会資源の活用や改定を見据えた取り組みなどを含め当協会も基本方針５つの重点項目を掲げ実施推進しているところです。それらがさらに入居者の尊厳の保持や自立支援の取り組みに繋がってゆくことを心より願うところです。

広報誌発行にあたりご投稿をいただきました関係者の皆様ありがとうございました。
編集後記とさせて頂きます。　　小原陽一

大空と希望

NO 16

一般社団法人北海道認知症グループホーム協会
広報誌「大空と希望」 2017年8月発行
〒060-0001
札幌市中央区北1条西7丁目　広井ビル3F
TEL:(011)208－3320 FAX:(011)204－7312
URL　http://h-gh.net

「自立支援型看護・介護の提唱と地域連携について考える 」

自立支援型看護・介護の提唱と地域連携について考える

３０年の同時大改定は、特に病院にはインパクトがありそうだ。具体的には重症者主体で、医療から介護へ移行させる。在院日数削減。在宅復帰（自宅や住まい系が原則）。このことについて病院関係者は意外と気づいていない。
介護現場では「自立支援」がテーマで、改定の規模よりインパクトがある。

●本来あるべき姿として「治し支える医療」と「回復・改善・維持させる介護・福祉」へ
・つまり、本当の病院（治す）本当の介護（回復・改善・維持）事業所が生き残る時代です。悪化させない医療介護福祉の時代。

・介護は基本に戻る
「自立支援型看護・介護」（竹重私見）を目指しましょう。
・すでに気づいた現場・専門職から実践が始まっています。つまり、セラピストが「リハビリ・機能訓練・身体介護」を一体的に支援する。具体的には、評価を機能訓練室でするのではなく、日常生活の動作（身体介護：食事・排泄・入浴）に関わることで、単なる身体介護ではなく、自立支援を促す支援です。（６月９日骨太２０１７：市区町村だけでなく、事業所にもインセンティブを付与すると明記）
・専門職の領域が変わる：（患者・利用者からみた一体的なケアが求められる）病院の医師や看護師・セラピストなど医療職も認知症を学び地域の中で暮らす「自立支援型」を意識してきました。介護現場（介護職）はどうですか？気づいていますか？

●地域連携
・静岡県焼津市では、小規模法人が音頭を取りＧＨ・小多機・看多機・有料と病院関係者そして行政・包括との連携でスムーズな退院・退所支援のしくみが出来そうです。グループホームだけで集まって考えるのではなく、地域（エリア）の医療・介護・福祉・住まい系関係者が集まり病院・施設から住み慣れた地域へつなぐ仕組みづくりをすることが包括ケアの基本です。
・小規模法人・事業所が共同体をつくり、医療職等を確保。又は大規模法人との連携で専門職（医療職等）を確保する。（次期改定対策：機能訓練・経口維持・栄養摂取等）

●キャリア段位と医療的ケア
・介護職の奮起を促す！
医療の一部と中重度者・認知症が主体の制度に変わろうとしているのに、努力しない介護職に失望した竹重は、２７年度から自立支援型看護・介護を提唱し、老健・通所・住まい系に看護師・セラピストを厚く配置して医療職が身体介護まで関わり、「自立支援に向けた取り組みが始まりました。（前述）
・介護職は（キャリア段位のレベル３・４をクリアして、医療的ケアを学び、認知症実践者研修は必須の介護現場でないと、事業所も介護職も生き残れません。
介護職よりセラピストを厚く！が昨年からのスローガンです。

●地域課題
・病院・老健・特養の認知症の方の地域移行・地域支援
・重度化が進むグループホームでの自立支援・地域の中でのグループホームの在り方・役割を考えていきましょう。

一般社団法人地域ケア総合研究所
所長　竹重俊文

平成29年度事例研究大会in札幌　開催

「原点回帰、今こそみつめようグループホーム」～明るい未来に繋げるために～

＜講演会＞
日時　平成29年10月1日（日）
14:50～17:50　（14:00～受付開始）
場所　ロイトン札幌　　参加費　無料
演題　「認知症ケアの原点」
講師　永田久美子（認知症介護研究・東京研修センター研究部部長）
演題　「介護人材が集まる事業所・集まらない事業所は？」
講師　井戸和宏氏
＜交流会＞
日時　平成29年10月1日（日）
18:00～20:00　　場所　ロイトン札幌　　会費　6,000円
＜事例発表会＞
日時　平成29年10月2日（月）（8:30受付開始）　10:00～16:20
場所　ロイトン札幌　　参加料　会員・学生　1,000円　一般　1,500円
事例発表　約12事例
基調講演1　「今こそみつめようグループホーム」
講師　林崎光弘氏（社会福祉法人　函館光智会　理事長）
基調講演2　「どうすれば認知症の人への虐待をとめられるか」
講師　林田俊弘氏
主催　（社）北海道認知症グループホーム協会
後援　北海道/札幌市

お問い合わせ：　協会事務局　TEL011-208-3320　FAX011-204-7312
大会事務局　グループホーム 風車の家　奥田 洋
TEL/FAX:011-666-8514
詳しくは（社）北海道認知症グループホーム協会のホームページをご覧ください。

日頃より会員の皆様におかれましては、入居者様の支援や地域活動等に汗を流され、心より「おつかれさまです」と言わせて頂きます。

さて、このたび私たち札幌ブロックでは、日々の実践を多くの皆様と共有する場を設けるために「原点回帰、今こそみつめようグループホーム～明るい未来に繋げるために～」というテーマのもと札幌にて実践研究大会を開催する事となりました。

会場はロイトン札幌、日程は１０月１日（日）に講演会を講師に永田久美子氏と井戸和宏氏をお迎えして開催します。その後、交流会も予定しておりますので会員皆様の交流を深めて頂きたいと思います。

翌日１０月２日（月）には事例発表会を各ブロックより集まった１２事例の発表を予定しており、講演会では講師に林崎光弘氏と林田俊弘氏をお迎えしての基調講演となります。

講師の方々には今回の大会テーマを伝えており、テーマに沿った講演になるかと思います。

このたびの大会の他にも日本〝新〟三大夜景の一つの札幌の夜景などの観光もお楽しみ頂ければ幸いかと思います。

講演会・交流会・実践研究大会とも、実行委員一同、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

実行委員長　加藤浩志

研修日程と開催都市（予定）

認知症介護実践研修
（実践者研修）

第１回（札幌市）
平成29年5月16日～6月27日
第２回（旭川市）
平成29年7月4日～8月17日
第３回（幕別町）
平成29年7月26日～9月13日
第４回（苫小牧市）
平成29年9月5日～10月17日

認知症対応型サービス事業管理者研修

第１回（札幌市）
平成29年6月27日28日
第２回（旭川市）
平成29年8月17日18日
第３回（幕別町）
平成29年9月13日14日
第４回（苫小牧市）
平成29年10月17日18日

認知症介護実践研修
（実践リーダー研修）

第１回（苫小牧市）
平成29年5月23日～7月21日
第２回（札幌市）
平成29年10月24日～12月22日

認知症介護基礎研修

第１回（札幌市）
平成29年11月25日
第２回（旭川市）
平成30年2月20日

日程等変更になる場合がございます。　詳しくはHP等をご覧ください。

ブロック	時期	開催地	事業名	講師
札幌	平成29年9月22日	札幌市	癒されませんか？Part5	宮崎直人氏 吉川よしひろ氏
道央	平成29年6月19日	恵庭市	新人・中堅スタッフスキルアップ研修	荒川裕貴氏
	平成29年6月20日	恵庭市	知っておきたい接遇マナー	貞広知可氏
	平成29年10月17日	恵庭市	疾患別の認知症の特徴について	千歳病院認知症疾患医療センター医師
後志	平成29年8月25日	小樽市	アセスメントと介護記録	小林大祐氏
道南	平成29年12月5日	函館市	計画作成担当者研修会	釜谷薫氏
日胆	平成29年9月10日	登別市	日胆ブロック実践研究大会	宮崎直人氏 釜谷薫氏
十勝	平成29年10月中旬	帯広市	「失敗なんてないんだよ～♪」研修	高畑氏 山本氏 濱功之氏
道東	平成29年6月15日	釧路市	“今さら聞けない”介護記録のしかた	釜谷薫氏
道北	平成29年9月13日	旭川市	コミュニケーションスキルアップ研修	坂井礼子氏
オホーツク	平成29年7月20日	北見市	ケアプランとその活かし方	釜谷薫氏

「共用型認知症対応型通所介護に取り組んで」

「共用型認知症対応型通所介護に取り組んで」

静内ケアセンターでは３ユニットのグループホームを運営しているが、２７年度までは１法人３名までのデイサービスしか受けいれることができなかったのであるが、２８年度から１ユニット３名までの受け入れ可能となった。

新オレンジプランでも、「認知症グループホーム」は、地域における認知症ケアの拠点として、その機能を地域に展開し、共用型認知症対応型通所介護や認知症カフェ等の事業を積極的に行っていくことが期待されており、前回の介護報酬改定で、平均２．２７％の削減があり２７年度決算では、当社も開設以来初めて赤字となったことから、２８年度は積極的に共用型

デイサービスに取り組んだ。

その要因の第一は、グループホーム待機者が多く、直ぐに入居とならないことから、在宅で暮している人への支援からニーズに応える必要があった。

第二に、各グループホームが人員基準の３：１要件を大きく上回る１日日勤帯で４０～５０時間の勤務体制があり、デイサービスを行うに当たり人員の補充をしなくていいこと。第三に、グループホームの持っている機能を地域に活かすという活動目標に合っていること。第四に、当社は認知症デイサービスも２ヶ所運営しているが、その開設時間が９時～17時であり、そのデイサービスの開始前、終了後のニーズ対応が求められていたことがあげられる。

評価としては、待機者の中でも在宅で暮らすことが困難な人の受け入れをしましたので、利

用者と職員の関係性が構築できることから、スムーズな入居を可能とし、リロケーションダメージがなくなった。

早朝７時からの受け入れや19時までの受け入れが可能だったことから、働きに来る時に連れて来て、仕事が終わって帰る時に一緒に帰るというニーズに対応できたり、７時から10時まで共用型デイサービスを利用し、その後「認知症デイサービス」に通う利用者もおり、地域の多様なニーズに応えることが出来た。

28年度は３ユニットのグループホームで受け入れたわけであるが、その合計が6,183,625円の収入を上げることができた。その成果を職員へ決算手当として還元することもできた。

全国的にみても１ユニット定員９名以下のグループホームが３４％あり、重度化・高齢化、多くの人が合併症があることから、入院における経営的リスクも大きく、共用型デイサービスにより経営改善にもなる。28年度の実績では全国でも１０％未満の実施しかされておらず、積極的に取り組むべきと思う。

静内ケアセンター「栗ちゃんの家」
「岡ちゃんの家」
「ほほ笑みハウス」

代表　下川孝志

「【道東ブロック】定期総会を終えて 」

平成29年5月19日に北海道グループホーム協会道東ブロックの定期総会を開催し、滞りなく無事終了する事ができました。平成28年度に役員改正があり、一年を経て私たち道東ブロックの役員一同も課題が見えてきました。
この一年の反省を生かし、道東ブロック役員として、グループホーム事業所として、何より入居者様により良いサービスの提供に繋がるよう事業展開して参りたいと思います。

スタッフが一同に介し、“一つのテーマ”をとことん話し合うといった内容です。その“一つのテーマ”の中に「事例発表会」を設ければと考えております。

キャリアパス支援事業としても、ここ数年、男性も介護の担い手になりたい方が増えております。ですが調理が苦手と言う方も少なくありません。現場の経験に勝るものはないですが。さて、今年度の「道東ブロック」の抱負として、どういった研修事業を心がけていくか？
昨年度から継続する自主事業として、「井戸端会議」、「交換研修」を継続し、新たに「事例発表会」を今年度10月に開催したいと予定しております。そもそも「井戸端会議」とは、年5回程度、各事業所の管理職から新任者まで幅広い昨今、介護スタッフの人材不足も否めなく、中々調理の指導までする事が困難というのも事実であります。アンケート調査をした際に、そういった声が挙がっており、今年度の研修の中には調理実習も含めた研修なども予定しております。

現在は、道東ブロックで以前作成した「各

事業所の緊急連絡網」を更新作成中です。
活用方法としては、「SOSネットワーク」に類似しているものですが、協会員一同に連絡網をまわし、全事業所も協力して捜索体制を整えるといった形のものになります。

北海道認知症グループホーム協会道東ブロックとして、今現在50事業所の会員がおり、各事業所の不安や疑問などにしっかりと向き合い、我々道東ブロック役員として今年度も精進して参りたいと思います！

北海道認知症グループホーム協会
道東ブロック事務局　合林　裕也

『日胆ブロック活動報告』

日胆ブロック活動報告
日胆ブロックでは、昨年度理事の改選に伴い、釜谷理事が副会長になったことを受け、新たに高蠣理事を迎え、また事務局の移動と慌しいスタートとなりましたが、認知症介護実践者研修及び認知症対応型サービス事業管理者研修は継続して実施し、ブロック助成事業を活用しリーダー研修フォローアップ研修を開催するなど、変わらず人材育成のための活動を行っております。
今年度は、２年振りになりますがすでに開催されております認知症介護実践リーダー研修、9月に予定されております認知症介護実践者研修及び管理者研修、ブロック助成事業を活用しました日胆ブロック事例発表大会（９月２１日開催）を企画し、さらに研修協力事業といたしまして、地域のグループホームの協

力の下、キャリアパス支援研修事業を活用し、昨年度に引き続き介護福祉士受験対策講座、介護支援専門員受験対策講座、和田行男氏による認知症ケア研修と予定満載です。また宮崎会長や釜谷副会長、高嶋理事を講師に招き、下川会長の下で地域密着型の研修を開催し地域の人材育成を目指して活動しております。
今何が必要か？これからの未来に必要なものは何か？それぞれの事業所の役割を認識して活動しつつ、加入している会員のために何が出来るか？いつもそれらを考えながら日胆ブロック一丸となって取り組んでおります。
いつかこうした活動が実を結び、グループホームに暮らす入居者はもちろんのこと、地域が社会が豊かになっていくことを信じ、これからも団結して取り組んで行きたいと思っております。

日胆ブロック事務局担当：荒川裕貴

「札幌ブロックの活動報告」

札幌ブロックでは助成事業を１回、実践者研修等の活動協力を各1回、後援事業１回の活動を実施致しました。

助成事業の「癒されませんか？」研修は９月２日に開催致しました。この研修は、介護の職場で働く職員が自分自身や仲間を認め合い、元気づけ、労うことで、モチベーションアップを図り、心身共に安定し職場での支援がより充実したものとなることを目的としておりまして、今や恒例となりました札幌ブロック独自の研修です。
Part４となりました２８年度の研修は、開催場所が大通公園の中に位置している資料館で、レトロで厳かな雰囲気の中であったため、研修目的にぴったりマッチしていましたことと、資料館にたまたまいらしていた一般のお客様も研修に参加して下さるという嬉しい場面もありました。第1部は宮崎直人会長によるトーク＆トークで、「人生大丈夫だってさ」と題した力強いご講話は、介護職員のみならず一般参加の方々の心にも深く語りかけるものがあり多くの反響がありました。第２部はチェロ奏

者　吉川　よしひろ様によるトーク＆チェロで、吉川様がNHKラジオ深夜便にゲスト出演した時のお話をふまえながらのチェロ演奏でした。吉川様の奏でるチェロの音色と優しい声にはすぐに引き込まれ、文字通り心の底から“癒された”時間となったのではないでしょうか。
後援事業では、ブロックの会員の方からご要望がありましたボウリング大会を研修と組み合わせ９月３０日に実施しました。研修会は、講師はT９ヘルスネットワーク部長　長谷川　千明様に、ファシリテーターとして北海道認知症地域コーディネーター　吉田　健司様にお願いし、事例をもとにしたグループ討議形式で実施しました。参加された方からは「事例形式の研修をまたやってほしい」「色々な角度から事例を考えることができて参考になった。」などの感想もいただきました。
研修にご参加下さった方、ご協力下さった方へ改めてお礼申し上げます。研修で得たものを活かしながら、これからのブロック活動に積極的に繋げていきたいと思っておりますので今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

札幌ブロック　数馬　愛子

『RUN伴2017inあさひかわ大会を終えて』

「ＲＵＮ伴２０１７inあさひかわ大会を終えて」
チーム旭川：事務局
フレアス在宅マッサージ旭川　　坂　純子

チーム旭川として今年で5回目の参加をさせて頂きました。毎年、たくさんの方に応援、参加をして頂き感謝申し上げます。折角なので“あさひかわ”と“チーム旭川”の自慢話をさせて頂きたいと思います。
旭川は「連携＆連帯」を合言葉に多職種の繋がりも多くみられ、愛に満ち溢れた穏やかな街並

みであります。そこに名乗りを上げたのが“チーム旭川”。認知症になっても住みやすい旭川であることをアピールする為、二回に分けて啓蒙活動を行っています。

地域包括センターから市役所までをオレンジ一色で染め尽くす“オレンジＲＵＮ”。旭川から地方へ繋ぐ“ＲＵＮ伴”。どちらも熱い魂が漲ります。旭川が住みやすい町である事を周知できて…、横の繋がりが出来て…、感動がいっぱいあって…、「暑い夏こそＲＵＮ伴。ＲＵＮ伴あっての熱い夏！」
毎年、欠かせない行事になりました。介護をされているご家族

様、介護を職業にされているスタッフさん、これから認知症になってしまうかも知れない高齢者さん、皆さんの心にオレンジの花が咲きますように…。